

上関

# 未来通信

正月号

通算336号

発行 平成28年1月14日

## 謹んで新春の

## お慶びを申し上げます



上関町まちづくり連絡協議会

代表幹事代行 藤井 快宏

平成28年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

また、平素より『上関町まちづくり連絡協議会』の活動にご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、4期目の柏原町政がスタートし、新たな第一歩を踏み出しました。上関町は、過疎高齢化が進展し、厳しい状況に変わりはありませんが、『上関温泉鳩子の湯』、『道の駅 上関海峡』に加えて、5月には『上関町総合文化センター』もオープンし、町外からの来訪者が年々増えるなど、明るい兆しが見え始めています。

原子力発電についても、着実に前進がみられています。2030年度の原子力発電比率を20〜22%とするエネルギーミックスが決定され、将来も原子力を使い続けていくことが明確に示されました。9月には九州電力の川内原子力発電所が再稼働しました。今後、具体的な政策が検討される中で、必ずや新增設が議論されることになるでしょう。上関原子力発電所の建設が実現するのも遠い将来ではないと確信しています。

町連協は、今年も、講演会や勉強会を通じた原子力発電の理解活動に加えて、上関町の魅力の発信や諸活動を通じて得られた成果の反映など、町づくりにも積極的に参画していきます。上関原子力発電所の建設・運転を契機とした活力ある豊かな町づくりに向け、町民の皆さんと心をひとつにして、上関町の未来を築いていきたいと考えていますので、引き続き、変わらぬご支援をお願いいたします。最後に、本年が皆さまにとりまして、幸多き1年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

平成二十八年二月吉日

### 2015年の出来事

- 1 / 15 上関未来通信16号(正月号)発行
- 2 / 17 町連協幹事会
- 4 / 13 原子力産業協会(JAIF)年次大会・地域ネットワーク意見交換会に参加(青壮協ほか)
- 5 / 15 青壮協が中の浦清掃活動を実施
- 7 / 14 町連協幹事会
- 7 / 16 経済産業省が2030年度の電源構成比率を原子力20〜22%等とするエネルギーミックスを決定
- 7 / 25 青壮協主催エネルギー勉強会を開催(講師:山本育男氏)
- 8 / 19 町連協幹事会
- 9 / 1 上関町長選告示、柏原町長が無投票当選
- 9 / 10 上関未来通信17号発行
- 10 / 24 九州電力川内原子力発電所1号機が再稼働
- 10 / 26 青壮協主催エネルギー講演会を開催(講師:竹内純子氏)
- 11 / 26 原子力の日
- 11 / 30 上関未来通信18号発行・のぼり設置・街宣活動
- 12 / 2 上関未来通信19号発行
- 12 / 4 J A I F 地域ネットワーク意見交換会が上関町で開催(町連協、青壮協ほか)
- 12 / 21 町連協幹事会



上関町で開催！

# 「日本原子力産業協会 地域ネットワーク」意見交換会

12月3、4日の2日間、上関町で「日本原子力産業協会（略称：「原産協」）「JAIF」地域ネットワーク」の意見交換会が開催されました。

町連協もメンバーとなっている「JAIF地域ネットワーク」では、毎年春と秋に意見交換会が開催されていて、青壮協のメンバーを中心に参加しています。（未来通信でも紹介しています）青壮協から「各地で活躍されている皆さんに、是非その目の上関町を見ていただきたい！」と同協会へ熱く要望していたところ、今回、上関町での開催が実現しました。



意見交換会（1日目）

参加者は、全国の電源立地地域と消費地（青森・福島・新潟・福井・大阪・愛媛・島根）のオピニオンリーダー10名。町連協からは、藤井代表幹事代行（青壮協会長）はじめ青壮協のメンバーが中心となって参加しました。

初日は、上関原子力発電所建設予定地の視察からスタート。視察の後は、上関町を皆さんによく知っていただくため、嶋尾忠宏観光協会会長の案内で上盛山、鳩子の湯、道の駅「上関



建設予定地視察（1日目）

海峽」、総合文化センターを見学、「歴史にんじや隊」安田和幸さんから上関町の歴史も紹介しました。その後、総合文化センターで「新規立地点における課題について」と題して意見交換会が行なわれました。

「上関は新規地点なので、原子力に関わる研究施設の誘致や人材育成にも力を入れてみてはどうか」といった意見がありました。

まず、「上関原子力発電所」をテーマに、各立地点が建設までに抱えた課題や上関原子力発電所建設に対する各地の受けとめ等についてお聞きしました。「上関町内の大多数の方が原子力発電を望んでいるとは知らなかった」「テレビや新聞では原子力について否定的な偏った報道が見受けられる」「原子力発電に反対する人にも原子力立地によるメリットをしっかりと感じてもらう必要があるのでは」と訴えていく必要があるのではないか」といった意見がありました。

2日目は、場所を柳井に移して、「福島の現状と今後について」福島富岡町商工会長の山本育男さんと大熊町商工会長の蜂須賀禮子さんから、町の現状について説明がありました。復興に向けて大変な苦勞をされている中でも、原子力発電に対する否定的な話はなく、前向きに町づくりに取り組んでおられる姿が印象的でした。「自分たちが描いた町を作っていくことは嬉しい」といったお話もあり、私たちも元氣と勇気をいただきました。最後には、「放射線は目に見えないし正体がわからないから怖い」と思ってしまう子供の時からしっかり放射線につ

いて勉強していけば、訳のわからないまま怖がることはなくなる」とのアドバイスもありました。初めて上関町を会場として開催された意見交換会は、予定されていたスケジュールのすべてを無事に終了しました。

## 意見交換会を終えて

町連協 代表幹事代行 藤井 快宏  
青壮協 会長

今回は、原子力産業協会のご厚意により、各立地点の皆さんを上関町にお招きすることができました。私たちも開催に向けて準備してきましたので、無事終えることができて安堵しています。

参加された方から「上関町内の大多数の方が原子力発電所を望んでいるとは知らなかった。全国に上関の声が届くよう、強く情報を発信していかないといけない」という話を聞き、正直ショックを受けました。

原発建設を望んでいる上関町の声はなかなかマスコミに取り上げてもらえませんが、私たち自身が町民の思いを積極的に情報発信していく必要を強く感じました。そういった意味からも、今回の意見交換会は、参加



勉強会（1日目）

いただいた皆さんに私たち上関町民の思いを知っていただく良い機会になったと思います。

今回、先進地の皆さんとお話して、上関原発立地によって雇用の拡大も含め、とても大きな経済効果があることを改めて感じましたし、町づくりに向けたヒントもお聞きすることができました。「原子力発電所立地を契機とした町づくり」を目指す町連協およびその参画団体として、関係各所への提言等、今後の活動につなげていきたいと思えます。

## 一般社団法人 日本原子力産業協会

日本の原子力産業に係る企業、団体、自治体等、様々な業種の会員で構成される社団法人。2006年に改組される前の名称は「日本原子力産業会議」。

「JAIF地域ネットワーク」は、原子力発電所立地点や計画地点などの各種団体、個人で構成されており、原子力発電所やエネルギー、放射線などについて学ぶとともに、各地域での出来事や課題等について、意見交換を通じて情報の共有を図り、各メンバーの活動の参考にするとともに、これらを周囲の人々に伝えていくことで、原子力に対する理解促進を目指すことを目的としている。（平成27年12月現在、11グループと74名の個人が登録）

毎年数回、メンバー相互の情報交換や交流、原子力・エネルギー関連施設の見学、意見交換・勉強会等の活動を展開しており、立地点の生の声を聞き、また上関の情報を発信する場として町連協等が参加している。